

みかい

安住院便り
(第20号)

平成20年1月1日発行

〒703-8236

岡山市国富3丁目1-29

住職 生駒琢一

TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

操山の景観

今修復工事中の安住院多宝塔は、昔から「後楽園の借景」とか、「見かえりの塔」とか呼ばれ親しまれてきたことはご存知の通りです。「後楽園の借景」は、創建当時の岡山藩主池田公の望みでもありました。自然と人工とを融合させた名庭園の背景の山並みに、仏塔という宗教的建造物を収めようとした価値観は、素晴らしい発想なのです。

また、「見かえりの塔」の根拠は定かではありませんが、何処からでも眺めることができ、もう一度振り返ってでも見てみたい、そのような優美な塔であるという表現なのです。

どちらにしても、仏塔としての本来の宗教的な信仰の対象だけでなく、操山の山麓にたずむ景観としての要素が、岡山に住んでいたり或いは岡山を訪れる皆さんの心の中に溶け込み、その素晴らしさを観じてもらっていると感じています。

岡山に縁のある文豪の内田百閒や、与謝野鉄幹の文章や詩の中にも、操山の多宝塔を親しむものがあります。



現在、日本各地で自然保護だけでなく景観について様々な論議がなされ、その条例等も制定されている自治体も多いと聞きます。自然との調和や昔からの風景・町並みをどう維持するか、主観的要素も多くあり、方向性は難しいかも知れませんが、数多くの方が安らぎを観じられる空間であることを願っています。

自然と建造物との融和で言うならば、村の鎮守や寺院・神社の果たしてきた役割は重要なのです。建物自体が山や森などを信仰する観点で建造されていきますので、調和無しでは存在の意味がなくなってしまうのです。岡山市内の景観についての代表的な位置づけとして、操山の多宝塔も考えるべきなのです。

二百五十年前の岡山の町が、どのような情景であったかは分かりませんが、塔が創建された後の二百五十年で操山の多宝塔の存在は、岡山に十分位置づけられてきたと考えられます。その景観を次の二百五十年にどう受け継いでいくか、是非皆様といっしょに考えていければと願っております。多宝塔の修復工事は平成二十二年まで続きますが、仮屋根が解かれた新しい多宝塔の姿を、是非想像し、考えていただければ幸いです。

初観音法要のご案内

来る一月十七日（木曜）

午後一時より

本尊千手観音御宝前に於いて、大般若祈禱並びに護摩供を厳修致します。

年頭にお配りする「とし書き」にご記入の上、「ご参詣下さい」。また、特別祈禱も申し受けますので、前日までにご連絡下さい。

多宝塔鎮壇具発掘

現在、修復工事中の多宝塔の基礎の地下部分から、塔の鎮壇遺構が発見され発掘調査を行いました。

二百五十年前の創建時になされたもので、ほぼ当時の状態で残されていました。それは、塔という宗教的な建造物を護るための仏具で、真言宗の密教的な儀式が丁寧に行われていたことを物語っています。

その鎮壇具の内容は、八方の方角を護る青銅製の「輪宝」という法具、中央には五穀・五香等を納めた陶製の瓶、その回りに五色の小石です。全て真言宗の伝統的な地鎮鎮壇様式を厳格に踏襲していることと、状態の良いことに、驚嘆しております。



瀬戸内観音霊場開創記念法要

本年四月十一日（金）に毎年恒例の瀬戸内観音霊場の開創記念法要が行われます。今年の会所は、岡山市竹原（第番十一札所）の明王寺です。

中国観音霊場参拝③

昨年の十月十五日〜十六日、中国観音霊場参拝の第三回目を行いました。

今回は、鳥取県を中心に九ヶ寺をお参りしました。お弁当より傘の心配が必要な土地柄ですが、秋晴れに恵まれ、伯耆富士・大山の峯も素晴らしく、観音様のご利益を受けることが出来ました。帰りに浄土宗宗祖法然上人の誕生された岡山・誕生寺の立派な伽藍も参拝致しました。

鳥取から島根にかけてのは山岳信仰が盛んな地域で、険しい山道石段の古刹も多く、少し汗はかきましたが清々しさの残るものでした。時間と体力が許せば、三朝温泉の奥にある三徳山の国宝・投入堂まで挑戦してみたい雰囲気でしたが、遙拝で容赦願いました。本当に霊山というもののへの信仰の力に、仏教がとけ込んでいたのではないかと感じました。

次の予定は四月十六日（水）

・十七日（木）ですので、宜しくお願い致します。

